

「佳人の歌」 「上邪」

報告：花岡風子

今回も楽府^注の続きで、「佳人の歌」と「上邪」を学びました。「佳人の歌」の作者は漢の武帝お気に入りミュージシャン^{リ・エン・ニャン}李延年。妹に絶世の美女がいて、好色の武帝にその妹を側室にオススメする歌です。皇帝に対する、いわばコマーシャルソングのようなもの。

傾国、傾城^{けいせい}の美女という言葉はここから出ました。あらゆる美女に手を出してきた武帝は、そんなところの美女には興味を示しません。李延年は「一目見たら王都を滅ぼし、もう一目見たら王国が滅びるような美女でございますよ〜」と、皇帝の好奇心をそそって売り込むのです。

李延年の思惑通り、妹は皇帝から寵愛を受け、これによって兄も出世しますが、李夫人が亡くなった後は、ご用済みとなって殺されてしまいます。李延年はこの詩で出世し、この詩で身を滅ぼしたというわけです。

歴史的背景を伺ったあと、朗読練習。皇帝のそばで揉み手をしながらコッソリと耳打ちするようなイメージで詠んで、との植田先生のコメントには笑ってしまいました。

変わって「上邪」は激しい恋の歌。皇帝に対する忠誠心を歌った歌、とも言われているらしいです。「邪」は今の漢字で「呀」という感嘆詞。「ああ、私の大切な人よ」という呼びかけで始まり、「あなたと愛し合う

ようになってからは、絶対にこの愛を途絶えさせないようにしたいものだ。山が平らになり、その為に川(揚子江)の水が尽き、夏に雪が降り、天地が合体するような、そんなことが



jiā rén gē
佳人歌
lǐ yán nián
李延年

běi fāng yǒu jiā rén
北方有佳人
jué shì ér dú lì
绝世而独立

yī gū qīng rén chéng
一顾倾城

zài gù qīng rén guó
再顾倾人国

nìng bù zhī qīng chéng yǔ qīng guó
宁不知倾城与倾国

jiā rén nán zài dé
佳人难再得

佳人の歌

李延年

北方に佳人有り

世を絶ちて独立す

一顧すれば人の城を傾け

再顧すれば人の国を傾く

寧ぞ傾城と傾国とを

知らざらん

佳人は再び得難し

起きたら、貴方と別れましょう」という。

「こんなコト言われたら日本人のオトコは引くよねえ〜」との植田先生のコメントには一同爆笑。

この詩は現代北方方言では失われた入声という、詰まる強い音で韻を踏んでいて、当時はラッパを吹き、銅鑼を打ち鳴らして歌われた、恋歌らしからぬ激しい行進曲の様な歌だったらしい。

「まるで戦争の歌のようだね、でも恋もある意味修羅場だし、戦いかな?」と、植田先生のコメントは本当に面白いです。

古代は恋の歌と主君に対する忠誠心の区別が微妙な歌が多く、日本の国歌の「君が代」だって『古今和歌集』の中の詠み人知らずの一首で、ひょっとしたら恋の歌かも知れない、ナンテ聞いてビックリしました。

植田先生は数え切れない知識の引き出しをお持ちで、本当に魅力的です。毎回講義の度に先生の引き出しを全て開けてみたい!と思わずにいられません。

注)

楽府: 前漢の時、民間歌謡の採集のため楽府という音楽官署が設立されたが、楽府において集められた歌謡そのものをさす言葉となった。